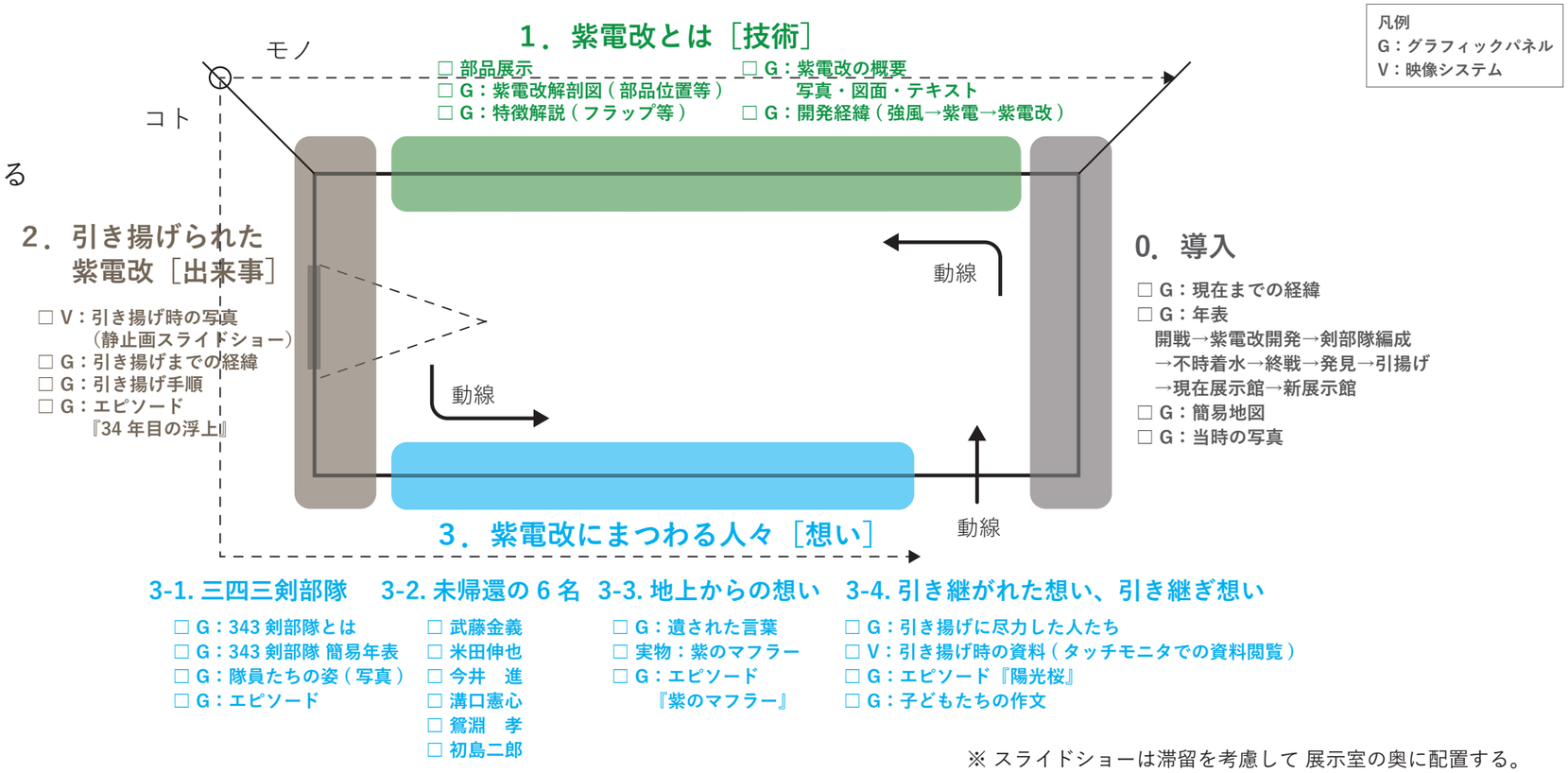
■ 展示室 展示構成案

展示室の奥の真正面に、この地の象徴的な出来事である
「2. 引き揚げられた紫電改」を展示。
その両側に「1. 紫電改とは」と
「3. 紫電改にまつわる人々」を展開する。
象徴的な［出来事］を中心に、
紫電改に関連する異なる側面である
［技術］と［想い］が向かい合う構成とする。

また、展示室のはじめに「導入」をもうけ、
紫電改にまつわるモノ・コト、時代の流れを紹介。
最初に全体像をつかむことで、
１～３の各コーナーの内容への理解促進につなげる。



※ スライドショーは滞留を考慮して 展示室の奥に配置する。

■ 展示室 構成イメージ

□ 引き揚げ時の写真（スライドショー）

当時の画像をスライドショーで投影する。
数秒ずつ淡々と流すことで当時の状況に静かに向き合い、
立ち会った方々の気持ちにも想いを馳せる。

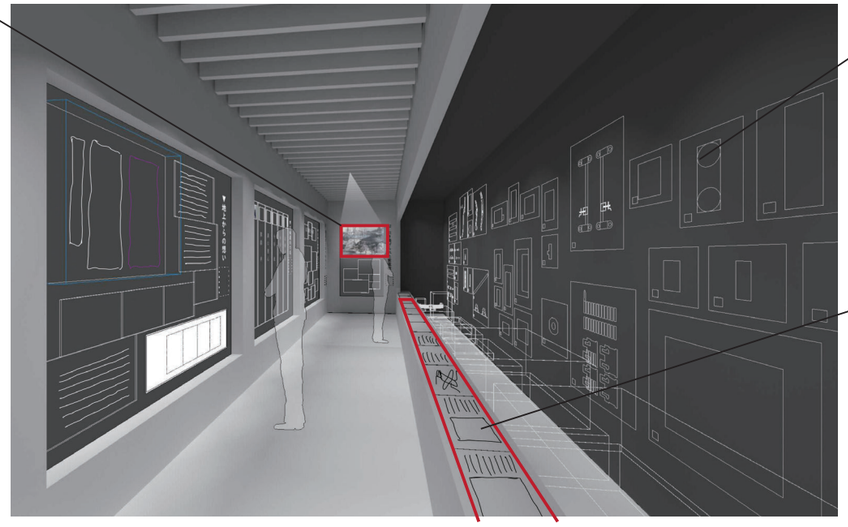
尾翼部分は各所が破損しており網を張って補強し引き揚げられた

引き揚げられた台船に置かれた紫電改　機体の内部を調査する関係者

操縦席風防に菊花が飾られたまま浮上した機体

□ 基本イメージ

コーナーごとに壁面を窓のように仕切り、展示内容をわかりやすく構成。
史実やエピソードを淡々と伝え、静かに向き合っていただく。



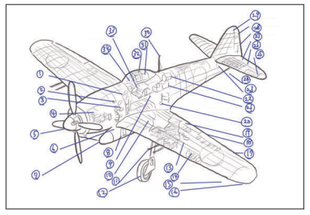
□ 部品展示

・部品をおおよそのカテゴリーごとに
　パネルに演示し、そのパネルを
　壁面に取付ける。（配置要監修）
・メンテナンスに配慮した案。

現状の部品展示

□ 紫電改の概要／開発経緯
紫電改解剖図／特徴解説

・手元部分には紫電改の技術的
　視点の解説を設置。
・部品にキャプション番号をふり、
　解剖図にも同番号をふることで
　どのあたりの部品かを対応
　させることができる。（要監修）


解剖図イメージ

※ 具体的な文言は施工時に協議の上決定する

■ ここならでは案　ー メッセージ展示 ー

❶ 問いかけ

平和について考えるきっかけ をつくる。
「平和とは？」という視点を持ちながら、
館内を見てもらうための導入メッセージ。

問いかけ例）

あなた にとって 平和 とは？

あなたの大切な人 にとって 平和 とは？

今の世界は 平和 ？ 未来は 平和 ？

❷ 体験者のコトバ

抽象的な「平和」という問いかけの後に、
戦争体験者のリアルな言葉を目にすることで、
「平和」でない世界とはどういうものか、
生身の人間として等身大で捉える。

コトバ 例）

「母さん、誠はダメかも知れないよ」
「いや、誠ちゃんは必ず帰ってくる」
と言って、毎日のように駅の方へ
出かける母の姿を見るのがつらかった。
弟が甲種予科練に志願してからは、
大好物の柿を絶って武運を祈った母である。
何かの都合に一縷の望みを託していたが、
ついに戦死の公報が入り、
きびしい現実となったのである。

三四三空隊誌
西村正氏
（西村 誠氏・兄）

現世に 命ありせば我が夫よ
業の道 何を選びて

三四三空隊誌
武藤喜代子氏
（武藤 金義氏・妻）

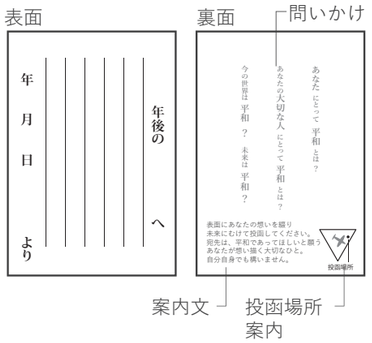
空戦に果てし弟が青春を
かけしこの地を 二度歩み見ぬ

三四三空隊誌
西村正氏
（西村 誠氏・兄）

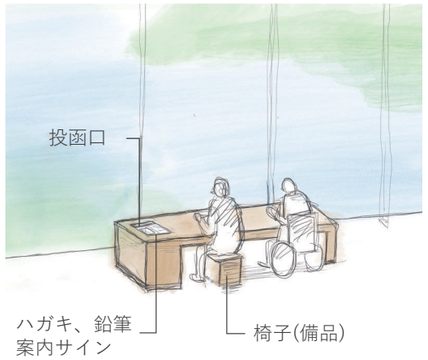
❸ 未来へのハガキ

館内を見た後で「平和」への想いをハガキに綴る。
対象は、未来の自分、未来の子ども、未来の社会、
未来の大切な人など。文字にすることで、自分なりの
「平和」にを考えると共に、未来のだれかに宛てることで
守りたいもののためにある「平和」の大切さにきづく。
また、戦中に書かれた手紙にも想いを重ねる。

ハガキ 例）



久良湾の風景を見ながら想いを綴る。

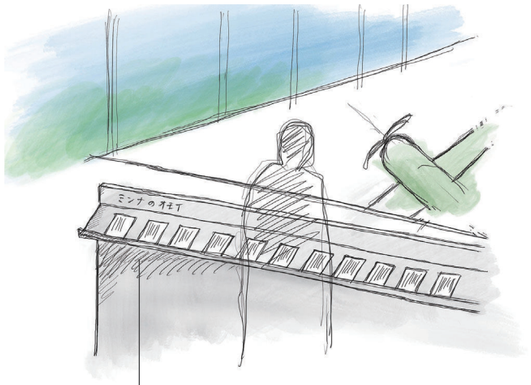


展開案
1．チケット発券時にハガキを一緒に渡す。
　(投函場所にもおいておく)
2．館内見学後、カウンターでハガキを書いてもらう。
3．ポストにハガキを投函してもらう。
4．運営者が投函された内容を確認し、選別、掲示する。
5．ハガキが溜まれば、ファイリング保管や
　スキャンによるデータ保管を行う。
　将来的には、企画展や、閲覧などの活用も検討する。

❹ みんなのオモイ

❸で投函されたハガキを掲示。
他の人たちの平和への想いや考えを知る。
自分と同じように、だれかはだれかの大切な人で、
平和を願っているということに気づく。

久良湾や紫電改を背景に様々な人の平和への想いを知る。



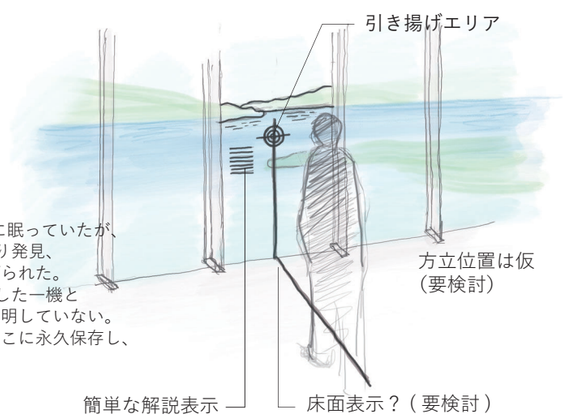
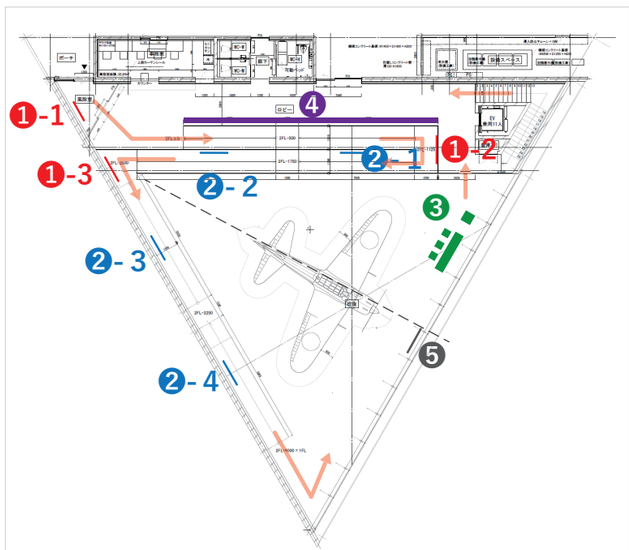
■ ここならでは案　ー ❺ 引き揚げエリア展示ー

“ここならでは”の魅力は、この紫電改が戦争を体験した「実機」であることと、
一度は海に沈んだ機体が、引き揚げられた久良湾に向かって、
風景と共に象徴的に展示されていること。
これは“ここならでは”の圧倒的な魅力であり、これに勝るものはない。

⇒ “ここならでは”の体験

この象徴的な空間を、来館者によりダイレクトに体感してもらう。
象徴性を視覚化することで、人的説明がなくても、意図に気づけるようにする。

ガラス面に引き揚げ地点をグラフィック表示。
あるポイントに立つと、前面の風景と丁度重なり合う。



解説文　例）
この紫電改は久良湾の海底 41ｍに眠っていたが、
昭和 53 年に地元のダイバーにより発見、
翌年に表示のエリアより引き揚げられた。
昭和 20 年の豊後水道上空で交戦した一機と
言われているが、搭乗員は未だ判明していない。
終焉の地、久良湾が望見できるここに永久保存し、
恒久平和を祈念する。